B会場

第１９回　秋田県教育研究発表会資料

「海外自主企画研修」を活かした総合的な学習の時間の実践

－違った生き方や価値観に触れ，自らの生き方を見つめ直す福祉教育－

平成１７年２月１０日

秋田市立秋田西中学校

教諭　三戸　学

「海外自主企画研修」を活かした総合的な学習の時間の実践

―違った生き方や価値観に触れ，
自らの生き方を見つめ直す福祉教育―

秋田市立秋田西中学校教諭

三戸　学

海外自主企画研修事業について

目的

次代を担う児童生徒を育成する教職員の主体的な研修を支援し、国際的視野に立った見識や教職に対する誇りと自覚を高めるため

研修内容

国際理解教育、情報教育、環境教育、福祉教育等、主に社会の変化に対応した教育に関するもの

期間　長期休業中…１週間～３週間程度

資格　本県勤続年数3年以上

主な研修内容

1. 障害者教員の雇用のあり方について
2. 学校施設について
3. インクルーシヴな教育について
4. アメリカの福祉について

アーカンソー州ファイアットビル　Jane and Jim Scroggs

2004年8月6日 ～ 2004年8月14日 8日間

前任校の保護者と一緒に

研修日程

8月6日　成田前泊
8月7日　東京(成田)→シカゴ (JL10)
　　シカゴ→ファイアットビル (AA4298)
8月8日　町並みのバリアフリー調査
8月9日　アーカンソー大学
　　Center for Student with Disabilities
　　(障害学生センター) を訪問
8月10日
　　[Life Styles (障害者自立支援施設)] を訪問
8月11日
　　RAMAY JUNIOR HIGH SCHOOLを訪問。
8月12日　現地の方との交流会
8月13日　ファイアットビル→シカゴ (AA4479)
　　シカゴ→東京 (JL09)
8月14日　羽田→秋田

研修先

- アーカンソー州立大学
  Center for Student with Disabilities
  (障害学生センター)
  EX)筑波大学，日本福祉大学…
- [Life Styles (障害者自立支援施設)]
- RAMAY JUNIOR HIGH SCHOOL

研修内容

1. 障害者が働きやすいように、職場環境を整えていた。相談機関の充実。サポート体制の充実
2. バリアフリーな学校施設⇒全ての子どもたちが生活しやすい
3. 全ての子どもたちが一緒に学んでいた

   インクルーシヴな教育実践

4. 自己決定に基づく，意志を尊重する福祉

⇒1990年　アメリカ障害者法 (差別禁止法) の制定により，人の意識や制度面で，充実。

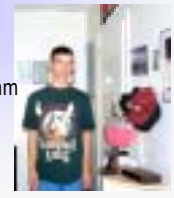
差別意識の高さ

ア メ リ カ
自立生活＝地域での生活

生活スキルを身につける場

障害者自立支援施設
(Life Style)

Timm



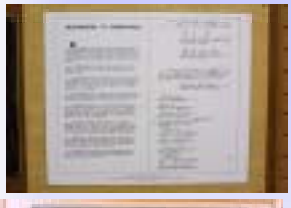
アーカンソー州立大学障害学生支援センター

- 障害による不利益被ることがないように。
- ⇒新たな挑戦を生み出す。
  他の学生にとっても良い。
- スタッフは，２０人程度
- １学年200/4000が障害学生

主な支援

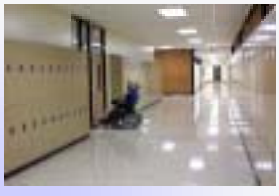
- ノートテイク　・テキスト等の文字を拡大
- テキスト等を点字に変換
- 試験時間の延長　・パソコンで答案を作成
- 問題を読んでもらう　・電卓の使用
- 代筆

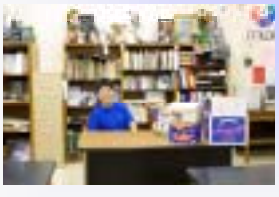
RAMAY JUNIOR HIGH SCHOOL



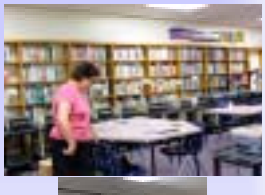
太平洋戦争で敗北を認めるサイン

アメリカ独立宣言





性教育(子育て)の実践
１０代の妊娠の増加



- ２０人前後の少人数学習指導
- 各教師の教室（生徒が授業ごとに移動）

三戸:障害のある先生について，どう思いますか。
先生：いいんじゃない

研修を通して　**人の意識**

教師生活に活かしたいこと

私が働きやすい職場環境は，誰にとっても働きやすい

⇕

生徒にとって，生活しやすい学校

国際理解教育，福祉教育，障害理解教育

It’s cool.

研修成果の普及

各教科等を通じて国際理解教育の推進に努めるとともに、県教育委員会主催の事業及び学校・地域において研修の成果を報告し、積極的な普及を図る。所属長は、研修生の研修成果を生かし、国際理解教育の推進を図ったり、学校経営や教育行政の活性化に役立てたりする場や機会を設けるよう努めるものとする。

① 2004年10月4日

職員会議後 10分間 海外研修報告会

② 2004年12月9日

3年総合的な学習の時間(若鷲学習)

「福祉体験活動」の1コース

65人の生徒が選択

「ふるさと夢づくり」

共通テーマ

新屋・浜田地区をもっとよくするためには…

主な学習課題

- 日米のバリアフリーの違いを知る
- 三戸先生の生き方を知る
- 障害者理解
- 自分の生き方に生かす

講話の様子

講話のねらい

- さまざまな生き方を知り、自らの生き方を見つめて、より良い生き方をつくる
- 障害者理解に努める
- 日米の福祉の違いを知ることにより、国際理解を図る
- 共に生きる心を育てる
- 地域を愛する心を育てる
- 夢や目標を持つ素晴らしさ

生徒の感想から

- …一人一人から差別の心をなくすことが大切なのだと思った。
- 思いやりを特別に思うのでなく、当たり前に思えるように、身近な場所(例えばクラスなど)をよくしていきたいです。
- 一人一人の障害者に対する意識を高めたり、相手の存在をしっかりと受け止めるということは、自分にとっても障害者にとってもすごく大切だと実感しました。
- …一番印象に残ったことは、「今度生まれるときも、今と同じ自分で生まれたい」という言葉。私も自分のことを好きになって、相手の存在を受け止めて、自分のことも相手のことも考えることができる人になりたい
- 「May I help you?」という言葉がどこの国でも、誰でも言えるような、そんな世界になっていくといいなと思いました。

バリアフリーに関するアンケート調査

参考資料

- 「バリアフリー」のという言葉の認知度
- 「バリアフリー」のイメージ
- 「福祉講話」を聞いての変容
- 障害者の講話を聞くことについて
- バリアフリー社会形成観
- あなたができること

アンケート調査結果から

- 「バリアフリー」の認知度が広がっている
- 日頃の授業や昨年の総合学習のＧＴ集会で、「バリアフリー」という言葉を知った
- 「三戸先生の講話」に、ほとんどの生徒が「バリアフリー」の考えの変更を迫られた
- 「障害者講話」について、好意的
- 自分自身や周囲のことを考え、自分なりの考えを持つ

私の提言

- 障害者の講話は、各学校で取り入れる
  ⇒自己を見つめる…教育課程への位置づけ
- 「違い」から学ぶ　⇒　インクルーシヴな教育
- 教師自身が障害者と共に生きていく心があるのか…
- 学校施設のバリアフリー化
  ⇒文部科学省「学校施設バリアフリー化推進指針」

・研修の成果を活かしていくには

障害者が働きやすい職場環境は，誰にとっても働きやすい職場環境生徒にとって過ごしやすい学校

一人の教師として

補　助　資　料

・海外自主企画研修の一連の流れ

８月６日　　成田前泊
８月７日　　東京(成田)→シカゴ（JL10），シカゴ→ファイアットビル（AA4298）
８月８日　　町並みのバリアフリー調査
８月９日　　アーカンソー大学　Center for Student with Disabilitries（障害学生センター）を訪問
８月１０日　【Life ｓｔyles （障害者自立支援施設)】を訪問
８月１１日　ＲＡＭＡＹ　ＪＵＮＩＯＲ　ＨＩＧＨ　ＳＣＨＯＯＬを訪問
８月１２日　現地の方と交流会
８月１３日　ファイアットビル→シカゴ（AA4479），シカゴ→東京（JL09）
８月１４日　羽田→秋田

その後

報告書の作成…秋田市教育委員会教育長，秋田県中央教育事務所長，秋田県教育委員会義務教育課課長

１０月４日　職員会議後１０分間　「海外研修報告会」

⇒２月１０日の発表会の資料をまとめるにあたり、教職員の研修について教頭先生に質問した。

「各学校によって対応は違いますが、研修報告会はほとんどの学校はやりませんよ」と教頭先生。今回の研修は２５万円の公費の補助を得て研修に行った以上、私はあらゆる機会に報告する義務と責任があるように思う。私が管理職に「海外研修の報告会をしたい」と言い、その気持ちを受け止めて実施できたことに感謝したい。

【…アメリカ研修を通して、私は人間的に成長したような気がする…しかし、それだけで良いのだろうか。生徒へのより良い教育活動を実践するために、教師は幅広い知見を得るため、研修をする。だから、生徒へ活かさない限り、私のアメリカ研修は終わらないような気がしていた…】

☆　職員への報告会後

同僚の先生に「アメリカ研修で学んできたことを、生徒に伝えたい」と相談した。「三戸先生のアメリカ研修を授業で活かそう」という同僚の先生の話はなく、私が“やりたい気持ち”を伝えた。学区内を歩いていると、地域や保護者の方が「アメリカ研修のことを、生徒に報告してほしい」と話してくれた。

平成１６年度教職員海外コミュニケーション研修事業(海外自主企画研修)実施要綱

研修の普及

各教科等を通じて国際理解教育の推進に努めるとともに、県教育委員会主催の事業及び学校・地域において研修の成果を報告し、積極的な普及を図る。所属長は、研修生の研修成果を生かし、国際理解教育の推進を図ったり、学校経営や教育行政の活性化に役立てたりする場や機会を設けるよう努めるものとする。

◎　生徒への報告

１２月９日　「障害者の日」３年生　福祉校外体験学習

学習のねらい

総合的な学習の時間で、生徒一人一人が福祉に関する自ら追求したい学習課題を設定した。『ふるさとゆめづくり～新屋・浜田地区をよりよくしていくためには～』と題して、自らの課題追求を通して、地域を見つめ、よりよい地域にするための提言をすること

・地域の福祉施設を訪問するコース
・校内で高齢者・障害者擬似体験コース
・　点字コース　…
・　福祉講話　etc

生徒の学習課題

NO	学習課題	質問･知りたいこと
1	三戸先生の生きがいを知るとともに、生き方についての自分に必要なテーマを探す。	米国研修に行った動機。米国で、一番印象に残った出来事。日米のバリアフリーの違い。秋田西中の現在の印象。これまでの人生の中で困ったこと・嬉しかったこと。モットー。これからの目標
2	講話を通して,自分のテーマを探る	何で米国に行ったのか。日米のバリアフリーの違い。一番の思い出。一番良かった地域。
3	三戸先生の話を聞いて、生き方について知る	アメリカで何してきたのですか。アメリカで大変なこと、困ったことは何ですか。日米の福祉の違い
4	これからの障害者について考える	生い立ち。教師を目指した理由。今まで苦しかったこと。嬉しかったこと(あれば)日米の福祉活動や施設の違い。これからの福祉や障害者の在り方。私たちにできること
5	さらに深める	アメリカと日本では、どのような違いが生まれ、またどちらが不便ですか。大変だったことは？アメリカに行って、何を学びましたか。
6	体に障害のある人の生き方を知る	バリアフリーをどう思っているのか。増やしてほしいバリアフリー。危ない目にあったことは。困ったときは、どう思うか
7	生き方について知る	
8	日米の違いについて知る	
9	自分の生き方を振り返る	日米の福祉の違いについて。どんなことを勉強してきたんですか。アメリカのボランティア活動について
10	外国と日本のバリアフリーの違いを考える	日米の違いと、どちらが住みやすい？
11		日米のバリアフリーの違い。米国への動機。一番の思い出。おいしい食べ物。これからの目標
12		なし
13		
14	生き方を聞いて、自分の生き方を振り返る	何でアメリカに行ったの。先生になるために、がんばったこと
15	自分の生き方を振り返る	日本より米国の方が便利と思ったこと。アメリカの福祉の特徴
16	自分の生き方と比べて聞く	日本にない米国の福祉。米国に行ったきっかけ。米国で学んだこと。日米の福祉に対する違い。アメリカのバリアフリーは便利か
17	外国と日本のバリアフリーの違いを考える	米国と日本の違い。仕事の環境。住みやすさ。実際の感想。
18	どうすれば、新屋が良くなるのか探る	今まで苦労したことは、ありますか
19	障害を持っている人について調べる	秋田県のバリアフリーへの取り組み。１人暮らしをしていて大変なことは何ですか。アメリカは、どうでしたか。今まで病気のことで苦労したこと
20	三戸先生の生き方を知る	西中生の印象は？今一番やってみたいことは？研修で楽しかったことは？行く前と行った後で変わったことは？
21	今までの努力した生き方について知る	今まで一番努力してきたことは何ですか。先生になってよかったこと・つらかったことは何ですか。アメリカに行って、どうでしたか。アメリカで一番心に残っていることは、どうでしたか。１人暮らしをして、大変なことはありますか。自分のことを好きですか。中学３年生のとき、どんな感じてしたか。好きな食べ物は、何ですか
22	障害を持っている人の生き方を学ぶ	苦労していること。バリアフリーをどう思っているのか。新屋の環境は、他の地域と比べてどうか
23	バリアフリーの違い	何の研修に行ったの。アメリカのバリアフリーについて。大変だったこと
24	障害者の心境を知る	教師への動機。学生時代は…アメリカ研修の内容…

25	日米の違いについて知る	日本とアメリカの福祉の違い。アメリカに行くまでにあったバリアフリー。改善追加してほしいバリアフリー
26	外国と日本のバリアフリーの違いを考える	アメリカに行ってきての感想。今までで一番大変だったこと。 日米のバリアフリーの違い
27	アメリカと日本のバリアフリーの違いを知る	日米のバリアフリーの違い。米国研修の動機。米国に行って大変だったことは
28	ガクちゃんの今までの考えと、これからの考え	日常生活で大変なこと。米国人は福祉と、どのように向き合っているか。米国の施設で、日本にも導入してほしいもの。日本人は、どのように福祉と向き合ってほしいか。先生は、福祉とどのように向き合っていきたいですか。
29	三戸先生が学んで知ったことを学ぶ	得たこと。日米の福祉の違い。日米の福祉のいいところ。障害を持ってよかったな。日常生活の不便な点。「愛」とは。学校生活で学んできたこと
30	質問内容を考えながら、がんばる	日米のバリアフリーどちらが優れているの。米国にも車椅子多くいたの
31	日米のバリアフリーや教育の違いを比べる	日米にないバリアフリー。米国で学んだこと。米国の教育で驚いたこと。先生になって良かったこと。先生になってからの苦労。教師としての目標。どのようなバリアフリーが便利なのか
32	アメリカと比べて、日本の良いところ悪いところ	バリアフリーについで日本のいいところ・悪いところ。アメリカのいい所・悪いところ。アメリカのバリアフリー、学んだこと。教師になるまで、なってからのつらい事・うれしい事
33	アメリカのバリアフリーをもとに、 地域のバリアフリーについて考える	日米のバリアフリーの違い。アメリカで苦労したことはあるか
34	外国の福祉を知り、秋田を見直す	海外と日本のバリアフリー化の進行度の違いを知る。障害者は、家のどこらへんが危ないのか
35	体に障害のある人の仕事について追求する。	アメリカの人たちと交流して、どう思ったのか？
36	アメリカのバリアフリーをよく知る	英語で話せたか。アメリカのバリアフリーは、どうでしたか。アメリカの料理。何日間、アメリカにいたのか。
37		海外へ何回目。英語は、大丈夫。研修先の気候。日米のバリアフリーの違い。アメリカ人との交流。
38	日米のバリアフリーの違い	米国のバリアフリーの特色。日米の違い？思い出。大変だったこと。ビックリしたこと。体験内容。行って良かったこと
39	人とのかかわりとの大切さを知る	アメリカの人たちは、どういう人たち。アメリカ人との交流を通して
40	秋田と米国の福祉の道具・器具の違い・共通点	秋田の福祉の良い点・悪い点。アメリカの福祉の良い点・悪い点。車椅子などの道具・外見について
41	日米の教育やバリアフリーを比べて	日本にない米国のバリアフリー。米国にない日本のバリアフリー。米国で一番学んだこと。日米の教育の違い。今まで一番苦労したこと。先生になって良かったことは。これからの目標。あったら便利だなぁと思うバリアフリー
42	秋田と米国の福祉の道具・器具の違いと共通点	秋田と米国、どちらが福祉が充実しているのか。秋田と米国は、どんなバリアフリーがあるのか。
43	バリアフリーの必要性	不便なこと。車椅子で一番困ったこと。生きている中で、つらかったこと。先生になって良かったこと。つらかったこと
44	しっかり聞く	日常生活で不便なこと。今まで一番困ったこと。嬉しいバリアフリー。先生になろう動機。
45	三戸先生の体験したことを聞き、障害者の気持ちを知る	日常生活で不便なこと。今まで一番つらかったこと。車椅子に乗って不便なところ良いところ。
46	日米の福祉を知り、自分なりの考えを持つ	米国で一番おいしいもの。米国の第一印象。日米で一番違うこと。一番楽しかったこと。有名人に会えたか。一番困ったこと。アメリカの流行

47	米国の福祉を学び、改めて日本の福祉を考える	米国の実情を見て。日米の福祉の優れている方
48	外国の福祉事情を聞き、秋田のこれからを考える	日米の福祉の違い(バリアフリー以外で)感心したこと。米国の印象。考え方の違い。障害者の頻度
49	米国の福祉について、地域向上のために生かす	日米の福祉に思うこと。アメリカで感じたこと。米国は日本に比べて。米国で日本にあった方がいいもの。
50	自分の生き方に生かす	研修の内容。研修で何を学んだのか。アメリカで行って良かったこと
51	伝えたいことが分かるように聞く	日常生活で不便なこと。生きてきてつらかったこと。車椅子で移動するときに困ること。先生になって大変だったこと
52	日米のバリアフリーの違いについて	数学教師を目指した理由。日米のバリアフリーの違い。この地域のバリアフリーは充実しているか。先生の生き方。西中にきて良かったこと。これからの夢。中学校時代に思っていたこと。３年生に言いたいこと
53	バリアフリーを通して、障害者の気持ちを考える	障害者の方とのコミニュケーションの取り方。日米のバリアフリー発達比較。どこの部分の障害が多いか。日米・男女別
54	日米のバリアフリーを比べる	バリアフリーが進んでいるのか。
55	アメリカの話を聞く	アメリカで体験したこと。面白いところ。つまらないところ。恐いところ。悲しいところ。楽しいところ。
56	日米の違いを知る	日米の福祉の違い。アメリカと比べて、日本の福祉の良いところ
57	日米の福祉に対する考え方の違いを知る	米国の福祉の考え方。米国の福祉の取り組み。これから日本でやらなければならないこと。日米の文化の違い。
58		アメリカで学んだこと。日米のバリアフリーの違い。どちらの方が生活しやすい。新屋・浜田に取り入れたら良いと思うアメリカのバリアフリー。アメリカのバリアフリーの凄いところ。日本にもある米国のバリアフリー
59	日米のバリアフリーを調べ、新屋・浜田の福祉を考える	日米のバリアフリーとその違い。新屋・浜田地区は、何に気を配っているか。アメリカの優しさ
60	わが街秋田！発見バリアフリー	日米のバリアフリーの違い。米国の良い点悪い点。車椅子で不便な点。使いやすい、使いづらいバリアフリー。バリアフリーで困ったこと。季節によって困ること。私たちにも知ってもらいたいこと
61	わが街秋田！発見バリアフリー	車椅子で困ること。公共施設で不便なこと。季節によって困ること。秋田のバリアフリーのたりないところ
62	日米のバリアフリーを比べて、新屋・浜田の福祉を考える	日米のバリアフリーの違い。新屋・浜田地区は、どんなところに気を遣っているのか。アメリカの優しさ。アメリカでどんなところが大変だったのか。アメリカと日本では、どちらが暮らしやすいか
63	日米のバリアフリーを比べて、新屋・浜田の福祉を考える	日本のバリアフリーは進んでいますか。アメリカの福祉で素晴らしい面。日米どちらが住みやすいか。日本で特に進んでいる都市。新屋・浜田地区で取り入れてほしいバリアフリーと、充実している施設。日本の福祉の課題。新屋・浜田地区は、全体的に見てバリアフリー化は進んでいますか

福祉講話について

- 午前１０時～午前１１時３０分。９０分(質疑応答を含む。途中、１０分間の休憩を挟みました)
- 生徒一人ひとりの学習課題を把握して,
  1　アメリカ研修のこと
  2　毎日の生活
  3　これからの夢・生き方
  4　生徒への質問に答えるＱ＆Ａ方式

講話タイトル

『いっしょに生きる～人は一人で生きられない～』

⇒　パワーポイントで発表資料を作成しました。そのスライドは参考資料

以下、生徒の感想の一部。

・「私は、三戸先生のお話を聞いて、『Ｍａｙ　Ｉ　ｈｅｌｐ　ｙｏｕ？』という言葉がとても印象的でした。日本では、困っている人や障害者や高齢者を見ても、「助けてあげたい…」とは思っても、実際に声をかけられる人は少ないと思います。しかし、アメリカの人たちは気軽に声をかけることができ、「どうすればいいの？」と聞くことができます。そこで、私は日本とアメリカの国際的意識の違いを感じました。「私が助けましょうか？」こういった言葉がどこの国でも、誰でも言えるような、そんな世界になっていくといいなと思いました。そして、健常者と障害者と高齢者が共に生き、尊重し合うことが当たり前になるといいなと思いました。これらが実現できるよう、一人一人が相手の存在を受け止め、身近に感じることが私たちのこれからの課題だと思います」

・「自分は、アメリカと日本の障害者福祉の事なんて、考えたことなかったので、今回の総合学習は、今まで自分には関係ないと思っていたことを考え直すいい機会になったと思います。障害者週間なんて言われなければ、絶対に気付くことなんてなかったし、アメリカと日本の障害者の定義や食事の違いなども今回知りました。障害者であるというだけで、別の職を勧められたりしたのは、そんなことをされた人しか知りえない辛い体験だったのだろうと思います。それでも【学級担任になる！】と夢を持ってがんばっているのは、とてもマネできない凄いことだと思います……」

・「三戸先生の話を聞き、障害者について詳しく知ったり、三戸先生の大変さなどが良く分かりました。うちのおじいちゃんも事故で障害者になり、乗り物を予約しないといけない大変さを私もよく知っています。電話しても、時間が空いていないと断られ、また電話して…など。そして、おじいちゃんのために家をバリアフリーにしています。そこの部分は、三戸先生と同じだなと聞きながら思いました。今日は、とても役に立つお話を聞けたと思います。メモをこの紙と同じサイズ五枚もとってしまうぐらいでした。この話を、うちのおばあちゃんに今日聞かせたいと思います」

・「…アメリカの福祉の話を聞いて、日本との“意識の違い”や“意識のバリア”について、自分も考えさせられました…三戸先生の話の中で一番印象に残ったことは、三戸先生のモットーである【今度生まれる時も、今と同じ自分で生まれたい】という言葉です。私も自分のことを好きになって、相手の存在を受け止めて、自分のことも相手のことも考えることができる人になりたいと思いました」

・「…学習課題であった【アメリカと日本のバリアフリーを比べ新屋☆浜田の福祉を考える】の答えとして、先生は「地域を愛すること」だと教えてくれました。それに応えられるように努力したいと思います」

福祉講話を地域の方も聞きに来てくれました。

「西中生のために、教師が伝えたいことを伝える。生徒は教師の思いを聞く。そのことから、生徒は大きく育っていくと思いますよ。これからも、三戸先生のメッセージを生徒に伝えてほしい。心の教育につながっていくと思います」

↓

教師自らの経験や体験を生徒に語る機会の設定

☆　生徒の感想から～一考察～

- **福祉講話は自らの生き方・価値観形成や家族，友だち，クラスを見つめ直す機会となった**
- **アメリカ研修を話すことにより，日米の福祉の違いや人の意識の違いなどを理解することができた。このことにより、講話を聞く前と比べて、生徒の国際理解が図られた。**
- **教師自らの経験や体験を生徒に語ることは、教育効果がある。**

↓

心の教育につながった

バリアフリーに関するアンケート

3年＿＿組＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

①　「バリアフリー」という言葉を知っていましたか。(どちらか１つに○を)

はい　　いいえ

「はい」と答えた方は，どこで(誰から)知りましたか。当てはまるものに，○をつけなさい。

新聞　　テレビ・ラジオ　　本　　マンガ　　友だち　　両親　　先生(授業で)

インターネット　　その他(　　)

②　「バリアフリー」のイメージを１つの色で表現すると、何色ですか。

＿＿＿＿＿＿＿＿色

また，その理由を聞かせてください。

③　「三戸先生の講話」を聞いて，「バリアフリー」に関する考え方が変わりましたか。

変わった　　変わらない　　(どちらか１つに○を)

また，その理由を聞かせてください。

④　障害者の講話を聞くことについて，どのように思いますか。

よい　　わるい　　どちらでもない　　(どちらか１つに○を)

また，その理由を聞かせてください。

⑤　『高齢者や障害者が住みやすい社会を創っていくことが，誰もが住みやすい社会を創っていくことになる』という考え方があります。あなたは，この考え方についてどのように思いますか。

⑥　秋田西中で，誰もが生活しやすくするために，あなたができることは何ですか。

調査結果

① 「バリアフリー」という言葉を知っていましたか。　　はい　97%
いいえ　3%

②「バリアフリー」の言葉を、どのように知りましたか。

新聞	テレビ ラジオ	本	マンガ	友だち	両親	先生 (授業)	インター ネット	その他
16%	52%	12%	2%	2%	3%	50%	3%	2%

③「バリアフリー」のイメージを１つの色で表現すると、何色ですか。

色	%	理由
水色	１１%	清潔感があるから
白色	２１%	バリアフリーは、ふだん気づかない所にあるから
ｵﾚﾝｼ色	１１%	優しく・温かいイメージがあるから
透明色	５%	バリアがなくなり、全ての人が平等に生きていくことができる
黄色	１６%	点字ブロックが黄色なので、そう思った。
黒色	２%	道路にありそうだから
青色	７%	なんか優しさの色のような気がするから
緑色	１１%	心優しい温和なイメージがある
ﾋﾟﾝｸ色	５%	理由なし
灰色	５%	道路や外などにあることが多いから
茶色	４%	何となくあたたかいイメージがあるから
赤色	４%	心の温かさ

④　「三戸先生の講話」を聞いて，「バリアフリー」に関する考え方が変わりましたか。
はい　８６%　　いいえ　１４%

その理由

- 今までは、バリアフリーというのは障害者にとか縁がないと思っていたけど、三戸先生の話を聞いて身近なものになった
- 障害者の気持ちを改めて実感できた
- バリアフリーは自分にとって、何も関係ないと思っていたけれども、講話を聞いて、もっと自分たちのことのように考え、良くしていかなければいけないと思った
- もともとあったバリアフリーに対するイメージがますます深まった
- 前から思っていたこともあったから

⑤　障害者の講話を聞くことについて，どのように思いますか。
はい　８８%　　いいえ　０%　　どちらでもない　　１２%

その理由

- 障害者から見る社会が分かるから
- 様々な自分からはみえない部分の話が聞けるから
- 障害者から直接聞くことによって、バリアフリーのことなどを身近に感じることができるから
- 私は福祉・介護について、非常に興味があり、今までの総合学習も全て福祉について、調べてきました。なので、三戸先生の話を聞き、またさらに分かったことが増え、大変うれしかった
- 悩みや本当は、どうしてほしいかなどの直接話を聞けるから
- 障害者からの目線で話を聞くことによって、思いやりが生まれるから
- 障害者は、普通の人より苦労している分、僕たちの参考になる考えを多く持っているから。ためになる意見を持っているから

⑥『高齢者や障害者が住みやすい社会を創っていくことが，誰もが住みやすい社会を創っていくことになる』という考え方があります。あなたは，この考え方についてどのように思いますか。

- 誰もが「住みよい」かどうかは分からないが、誰も「気持ちよい」社会にはなると思う
- そういうわけではないと思う。人それぞれの意見があるので、この考え方が必ずしも正しいとは思わない。
- その通りだと思う。バリアフリーを進めていけば、誰もがすごしやすい環境になると思います。
- 障害者の人たちが住みやすいということは、バリアフリーがたくさんあるということだから、私たちにも住みやすいからいいと思う
- そうだと思う。実際に今の社会環境で大変な思い多くしているのは、やっぱり高齢者や障害者だと思うから
- １番住んでいて困っていると思われる高齢者や障害者の人が住みやすいとなれば、みんな住みやすいということになるから、僕もそう思います

⑦　秋田西中で，誰もが生活しやすくするために，あなたができることは何ですか。

- まず、みんなが仲良くして生活しやすくすればよい
- 困っている人がいたら、自分から声をかける
- 直接、障害者や高齢者の人たちに僕たちが悩みを聞いて、紙にかいたものを集め、それぞれの場所で意見をする
- 横になって、歩かない
- きれいにしておく。整頓する。ごみをなくす
- みんな仲良くする

来年度、教育活動に生かしていきたいこと

- 全学年で、「三戸先生の福祉講話」を設けてほしい。

  (アンケート調査から…自らの生き方を見つめ直す生徒の姿)

- 生徒一人一人の私との関わり・車椅子を押す姿，生徒の変容

  …教育効果，生徒理解に活かすこと

⇒　生徒の心が育つ。私がいる学校の生徒でないと、気軽に車椅子を押す体験ができない。

教師間の共通認識

参考資料

２００４年１２月９日　３年「若鷲学習・福祉講話」

プレゼンテーション資料

平成１６年度　3年若鷲学習
ふるさと夢づくり

いっしょに生きる

～人は1人で生きられない～

秋田市立秋田西中学校教諭

三戸　学

Q：今日、12月9日は何の日？

A：障害者の日　12月3日　国際障害者の日

１９７５年に国連が「障害者の権利宣言」を採択した日にちなんで、１９８１年「国際障害者年」に定めた。

国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深め、障害者が社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めるため設けた。国や地方公共団体はこの日、その趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

努力義務

12月3日～9日　障害者週間

12月10日　世界人権デー

1948年　第3回国連総会「世界人権宣言」

すべて人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。

人権週間　12月4日～10日（日本）

当たり前なことですが

人々の意識は、まだまだ・・・

障害者の定義

申告制度

「障害者」とは、身体障害、知的障害又は精神障害（以下「障害」と総称する。）があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者をいう。　障害者基本法より

A.個人の主たる生活活動の一つ以上を著しく制限する身体的、精神的障害

B．かかる障害の経歴

C．かかる障害を持つとみなされること

アメリカ障害者法より

米国　20.8%　デンマーク･イギリス　11%

日本　3.8%

アーカンソー州ファイアットビル　Jane and Jim Scroggs

2004年8月6日　～　2004年8月14日　8日間

Q1：海外に、どれくらい行ったか？

A1：はじめて

電動車椅子の移動

メーカー⇒スズキ
機種　MC－16
重量88kg　(ウエットバッテリー　1個15kg×2，本体58kg)

国内線はO．K

国際線は？

体験学習

東京(成田)⇔シカゴ (日本航空)
シカゴ⇔ファイアットビル(アメリカン航空)

高さ70cm以上は，不可能

折り畳む

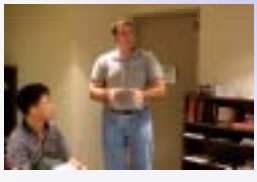
May　I　help　you？

主 な 研 修 内 容

1．障害者教員と交流したい？
2．バリアフリーな学校施設？
3．日本と教育の違い？
4．アメリカの福祉？

アーカンソー大学障害学生支援センター

・障害による不利益被ることがないように。
⇒新たな挑戦を生み出す。
　他の学生にとっても良い。
・スタッフは，２０人程度
・１学年200/4000が障害学生



主な支援

・ノートテイク　・テキスト等の文字を拡大
・テキスト等を点字に変換
・試験時間の延長　・パソコンで答案を作成
・問題を読んでもらう　・電卓の使用
・代筆

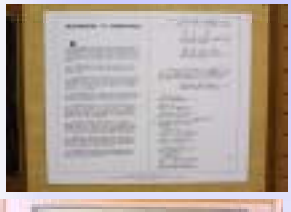
ア　メ　リ　カ
自立生活＝地域での生活

障害者自立支援施設
(Life Style)

日本　施設での生活

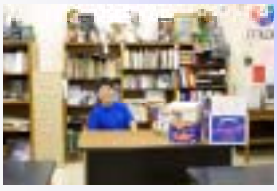
Timm

RAMAY JUNIOR HIGH SCHOOL

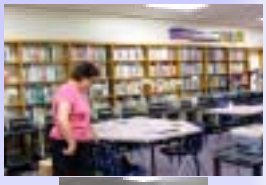


太平洋戦争で敗北を認めるサイン

アメリカ独立宣言



性教育(子育て)の実践
１０代の妊娠の増加



・20人前後の少人数学習指導
・各教師の教室（生徒が授業ごとに移動）

三戸:障害のある先生について，どう思いますか。
先生：いいんじゃない

研修を終えて

1．障害者教員が少ない。私が研修した地域で実際に，会うことはできなかった。

2．バリアフリーな学校施設⇒全ての子どもたちが生活しやすい
3．全ての子どもたちが一緒の学校で，学んでいた

4．自己決定の意志を尊重していた

⇒1990年　アメリカ障害者法（差別禁止法）の制定により，人の意識や制度面で，充実。

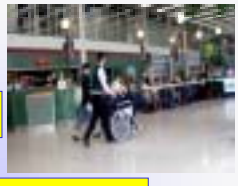
意識の違い ➡ 能力を最大限活かす支援

May　I　help　you？

どんなサポートが必要ですか？

安心感

Q2:日米の福祉の違い？



A2:

アメリカ障害者法

⬇

あらゆる差別を禁止した法律

障害者基本法

⬇

差別をなくしていこうと努力する法律

意識の芽生え

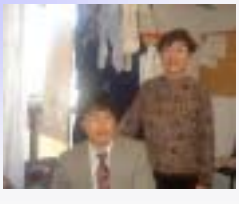
日常生活

ホームヘルパーによる支援

（月）（水）（木）の週3日

A．M:6;40～7;40

食事と衣服着脱（Yシャッ，背広）



Q3:日米の食事の違い

A：Big　サイズ　　お皿に1つ

・コカコーラ　・コーヒー

・ポテト　・ベーコン　・エッグ

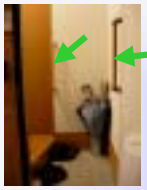
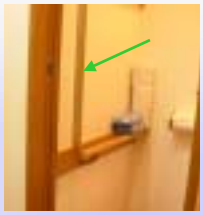
・ハンバーガー　・アイス

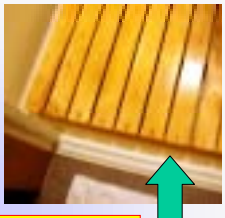
・パン

フォークやストロー

家の中のバリアフリー（玄関）

家の中…



浴槽の深さが５０cm以上は，底に足がつかない

手すりを付けたり，スロープを付けたり

すのこ

大家さんの許可が必要

Q4:一番困難なこと？

A４：

⇒ほとんどの方は、強い難色を示す。

他の職業を勧めてくれる方もいた。

＜前例がない＞ → *意識上のバリア*

“ 先生になりたい ” という気持ちは、おかしいの？･･･

僕がいる学校風景が当たり前

Q5:次の目標

A５：

卓球

学級担任

Q6:モットー

今度生まれてくるときも、今と同じ自分で生まれてきたい！！

Q7:新屋･浜田地区，君たちへの言いたいこと

誰のために生きるのか？

自分のために…

身近な存在

高齢者や障害者に親切な心･思いやりで接したい

誰もが住みやすい社会

誰もが住みやすいクラス

→ 相手の存在を受け止める

参考資料

アメリカ研修に持参した資料

毎日の教師生活の様子

ＲＡＭＡＹ　ＪＩＮＩＯＲ　ＨＩＧＨ　ＳＣＨＯＯＬの校舎案内図

Mr. Sannohe
at Nishi Jr high
5th Aug 2004

The entrance, the slope for wheel chair.

Door cock is low, easy to open.

the width is not good enough
for the wheel chair. //just size.

In Japan , we need other inside-shoes.
He can not use his electric wheel chair in the school.
He can wlk by himself.

The handrail helps him very much.

Mr. Sannohe can not go up or down the steps by himself. There is no e elevator.
This is electric step climer, he rides the chair and another person contorl to go up sairs.
Now 3 teachers can move this machine. After summer vacation, many teachers will take the lecture to move it.

He is the math teacher for 1st grade. He has to go up 3rd floor.

OLD

This rest room is very old. Ther is not even part.
It is hard to rise his leg .

NEW

NEW

OLD

The entrance at Nishi Jr. Hihschool

My teacher life

① The state of my class.(At tutizaki junior high school of former task school.2001-2003)

A left photograph.
The class of the morality.

A right photograph.
The class of the math.

I helped other teacher writing backboard. I stand up, and I can teach mathematics.

The learning card used so that I may vary according to writing backboard . Drawing paper is cut into the suitable size, and a magnet is put in the reverse side.

My work tool. (set square and compasses).

Table tennis is my dream, and my goal.
The handicapped person's National Athletic Meet.
In miyagi,2001

Tutizaki junior high school festival . Welfare corner:2003

My speech.

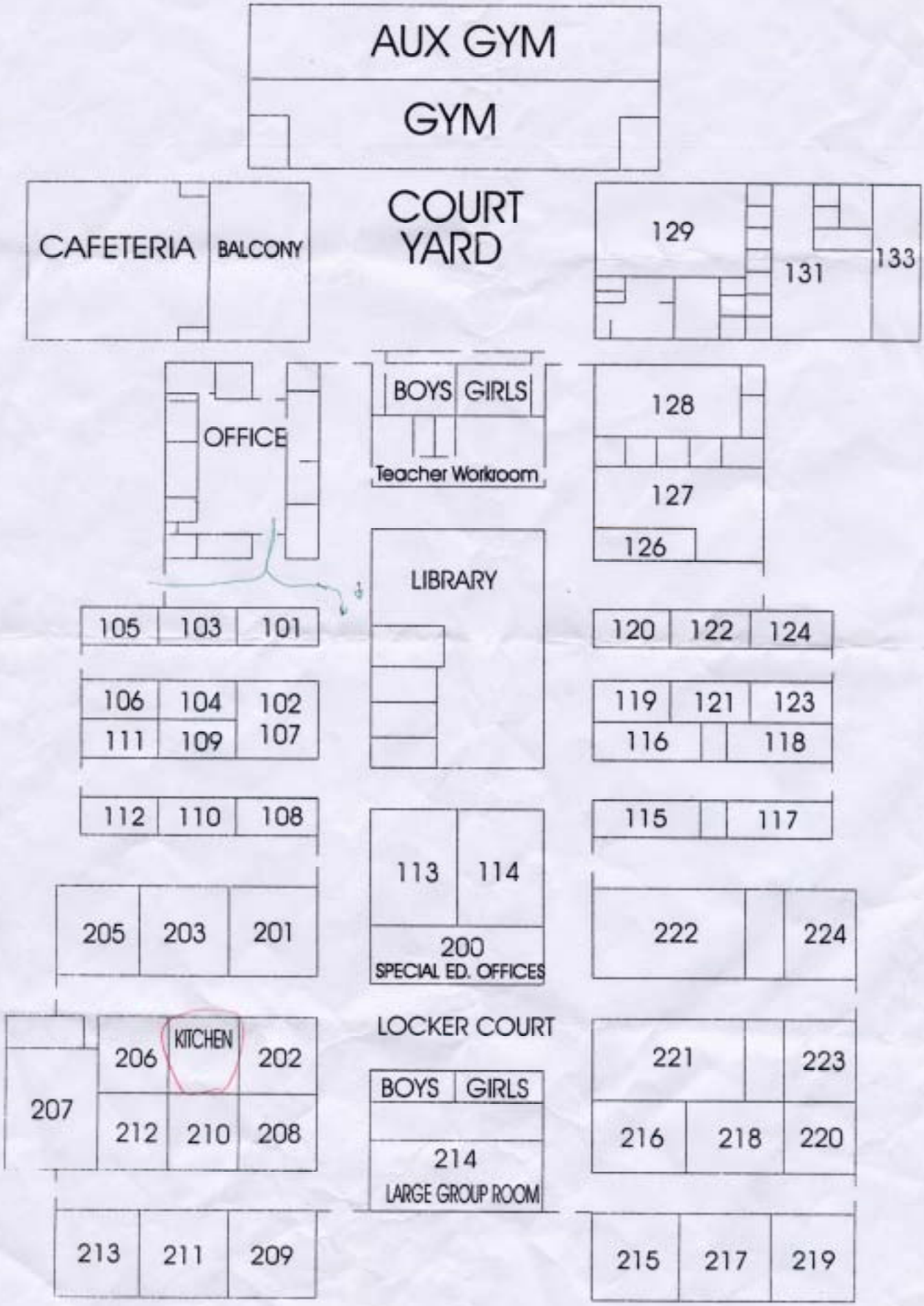
Older human false experience.

Wheelchair experience.

Akitanishi junior high school.2004～

My electromotive style wheelchair of using preferably.

In the slope of the entrance.


AUX GYM
GYM
COURT YARD
CAFETERIA
BALCONY
129
131
133
OFFICE
BOYS
GIRLS
Teacher Workroom
128
127
126
LIBRARY
105
103
101
120
122
124
106
104
102
107
111
109
119
121
123
116
118
112
110
108
115
117
113
114
200
SPECIAL ED. OFFICES
205
203
201
222
224
207
206
KITCHEN
202
212
210
208
LOCKER COURT
BOYS
GIRLS
214
LARGE GROUP ROOM
221
223
216
218
220
213
211
209
215
217
219

アメリカ研修で学んだこと

三戸　学

私が中学校数学教師を目指した動機は、多感な中学生に私が関わっていくことで、思いやりの心や助け合う素晴らしさ、人を外見だけで判断しない豊かな人権感覚を自然と身に付くと思ったからです。健常者と障害者が共に生きていこうとする『ノーマライゼーション』という思想があります。私が生徒と関わることは、その思想の具現化です。加えて、自然な障害者理解につながると信じました。そして、障害者が教師として生徒に関わることは、ノーマルな学校風景と考えました。

１９９９年３月。山形大学を卒業して、秋田に帰ってきて、「中学校の数学教師になりたい」と話すと、周りの方の中には「無理！」「他の職業にしたら…」「障害者雇用で，就職したら」と言う方がいました。“そんなに、私が教師になることはおかしいことなのかなぁ”と思い、私の気持ちを伝ええました。

教師１年目。理想とする教育はあっても、不安がありました。私が関わって、どのように生徒は受け止めるのか、私が数学の授業を通して、何を生徒は感じ取るのか…手探り状態でした。そして、保護者の障害者教員に対する漠然とした不安をどのように解消すると良いのか…階段の上り下りや授業の板書などが困難なあるがままの私の姿で、生徒と関わりました。土崎中に赴任した頃、「三戸先生の言葉が理解できないと子どもが言っている」「数学の学力が身に付くのか、心配」と数名の保護者から学校へ問い合わせがあったと聞きました。その時の校長先生は「もう少し、待ってください。そのうち、生徒は三戸先生に慣れますよ」と答えたと聞きました。

土崎中の３年間、障害者教員が教師として十分に働くことができる自信を培いました。３年間で、全校生徒の意識が変わりました。私がいる学校風景が当たり前になりました。階段の前にいると、私が「肩を貸してくれませんか」と声をかけないと肩を貸してくれなかった生徒が気軽に「先生、一緒に上ろう」と声をかけてくれました。生徒と私が学校生活を過ごすことで、予想を遥かに超えて、共に生きていく力や豊かな人権感覚を育みました。将来、大きな力になると確信しています。

秋田西中に赴任して、１年になろうとしています。４月当初に比べて、生徒は変わってきていると思います。気軽にサポートをする生徒が多くなりました。「困っている人がいたら、サポートすることが当たり前」という意識が育っています。私の椅子に座ってする授業を受け入れています。

現在、教師４年目。来年度、私は学級担任になることを熱望しています。生徒に対するより一層の教育効果を考えられます。私が学級担任になった場合、今以上に生徒や同僚の先生方の協力と、保護者や地域の方の理解が必要です。協力を得ながら、他の同僚の先生と働く姿が生徒により一層の教育効果があがると信じています。やはり教師になったら、学級担任をしたいです。

教師としての資質に障害は関係がない以上、学級担任としての資質に障害は関係ありません。毎年、学級担任を熱望しているのにも関わらず、未だ学級担任につくことができない現実です。『どうして、私が学級担任をできないのだろう』と考えれば考えるほど、１つの結論に至ります。それは『障害者だから…』という“障害者差別”を感じます。“差別”に関して、私は精神的に耐えられることはできません。私と一緒に働く仲間として、障害

者教員が学級担任になることに向き合い、考えてもらいたいと思います。もし、同僚の先生方が“障害者差別”以外の理由をあるとしたら、私に教えてほしいです。

昨年の夏、アメリカへ研修に行きました。現地の中学校を訪問しました。完全なバリアフリーな学校施設に、感動しました。「ステップがなく、私が自由に移動できました。私の勤務する学校と違います。どうしてですか？」と聞きました。アメリカ人教師は、「健常児と障害児が共に学ぶインクルーシヴな教育をしています。学校施設は、全ての子どもが移動できるようにしています。あなたが働きやすい職場環境は、誰にとっても働きやすい職場環境です。あなたが働きやすい職場環境をつくっていくことは、全ての子どもが生活しやすい学校につながっていく」と言いました。アメリカでは「あなたが学級担任として働くために、私たちはどのような支援をすると良いのですか」と聞くそうです。その思想には、「障害者の働きやすい職場環境を追求していくことがあらゆる人々のことを考えていくことになる」と話していました。

私が働きやすい職場環境は同僚の先生方・生徒、あらゆる全ての人々にとって、包括的に生活しやすい学校になります。私の言動は私の個人的なことでなく、全ての人々についてのことと理解してください。これからも、私は私の職場環境をよりよいものにしていきたいと思っています。そのために、私が同僚の先生方から浮くことのないよう、管理職には配慮をお願いします。

来年度、私は学級担任になりたいのです。５０年後の未来は、今以上に障害者教員が増えていると容易に想像できます。そして、学級担任の障害者教員がいると確信しています。学校は未来を語る場です。未来は与えられるものでなく、一緒に創っていくものです。未来へ向かって１歩を踏み出したい…私が学級担任になったら、様々なことが起こるかもしれません。しかし、年度末に「よかったなぁ」と終わることができると確信しています。なぜなら、未来へベクトルが向いているからです。

また、私が学級担任になったら、今以上に同僚の先生方のサポートが必要です。同僚の先生の協力を得ながら、学級担任をしていくことが１つの教育と思います。現在、静岡県の公立中学校に全盲の社会科教師がいます。ある雑誌で対談したことがあり、副担任の先生と一緒に学級担任をしています。なぜ、秋田県でできないのでしょうか。「バリアフリー」という言葉があります。教師４年目で、学級担任を熱望しているのに学級担任を持てない現実に対して、私は１人の障害者教員として「バリア」を感じます。一緒に働く仲間として、この現実をどのように感じるのだろうか。これまで、私は周りの人に私が感じた“差別”や“バリア”を伝えて、それを乗り越えてきました。そして、さらに仲間意識が強くなりました。

新屋・浜田地区は私が育った地域です。障害のある私を温かく受け入れてくれたからこそ、現在の私がいると思います。私が学級担任になったら、新屋・浜田地区は温か包み込んでくれると信じています。

“障害者を特別な扱いをしない”とよく聞きます。来年度で教師生活５年目。未だに学級担任を持つことができない教師がいる現実が“特別扱い”ではないでしょうか。